

132号線、道路拡張しても交通渋滞・事故の減少効果は見込めず
1期工事の85億円は税金の無駄遣い
いったい工事は何のため？

(1) 9月の杉並区議会本会議で、西荻窪の地元区議が情報公開資料をもとに、「132号線のB/Cの分析結果が0.5となっている。これでは道路拡張の効果はないので、工事は直ちに中止すべきだ」と区に求めた。これに対し区側は「都の認可も出ており工事は着実に進める」と答弁した。

(2) B/Cとは、Benefit(便益)/Cost(費用)のことで、BC分析とか費用便益分析と言われる。費用対効果と呼ばれることも。公共工事をやる価値があるか否かの判断基準であり、1.0以上なら「価値あり」で工事実施、1.0未満であれば「価値なし」で工事見送りとなる。

(3) 道路事業の場合の分析は①車の走行時間の短縮②走行経費の減少③交通事故の減少、の3要素で算定する。従って、132号線の分析結果が0.5だったということは、交通渋滞も事故も減らないので「工事を見送る」と判断すべきだったことを意味する。区は、道幅を広げれば渋滞は解消され事故も減るとPRしてきた。しかしその効果がないことは、最初からわかっていたことになる。であれば、これは明らかに税金の無駄遣いではないか。

(4) また、今回の分析では、事業費全体を80億円として計算しているが、実際の事業費は1期工事分だけで85億円を計上している。2期工事はこの2倍の金額になるとも言われている。事業費が大幅に増えるため、実際のB/Cは0.5をさらに下回ることになる。公共工事ではありえない事態だ。

(5) 拡張工事の効果がなく、巨額の赤字路線も見込まれているのに、区は何故工事を強行するのか。考えられる理由は2つ。

①西荻窪駅南口の再開発実現のため②巨額の道路工事を続ける限り政治家、官僚、民間企業の3者の利益が保証されるため、ということではないか。B/C分析は「検討年数50年」ということだが、50年先、果たして車は道路を走っているだろうか。

(以上) 2020.9.19